



何を願う？



今日は夏といっしょに近づく七夕の日です。七夕っていったいどんな日なのかその由来について少し紹介していきたいと思います。

七夕は、織姫と彦星が1年に1度だけ、天の川で会える日とされています。

次のような七夕（たなばた）に関する言い伝えがあります。みんなは、知ってるかな？

『昔あるところに、神様の娘の織姫と、若者の彦星がいました。織姫は機織りの仕事をしていて働き者。彦星は牛の世話をしているしっかり者でした。やがて2人は結婚しました。すると、今まで働き者だった2人は急に遊んで暮らすようになり、全く働かなくなっていました。怒った神様は、2人の間に天の川を作って離してしまいました。悲しみにくれた2人は泣き続けました。それを見た神様は、前のようにまじめに働いたら、1年に1度だけ、2人を会わせてくれると約束しました。それから2人は心を入れ替えて一生懸命働くようになったのです。そして、2人は年に1度だけ天の川を渡って会うことが許されるようになり、その日が七夕とされるようになりました。』



七夕に関する不思議の一つとして、なぜ短冊にお願い事を書くのかということがあります。それは昔の人が、織物の上手な織姫のように（織姫にあやかって）、「物事が上達しますように」と、お願い事をしたのが始まりだと言われています。また、笹の葉に飾ると、織姫と彦星の力で願いが叶えられたり、みんなを悪いものから守ってくれるという言い伝えがあるのだそうです。また、短冊以外の飾りにはいくつか種類があって、短冊に「願いごとが叶いますように（字がうまくなりますように）」という意味があるように、それぞれに、「豊漁になりますように」「お金がたまりますように」「長生きできますように」など、色々な意味があるそうです。なかでも「吹き流し」は、織姫さまの織り糸を表しているともいわれていて、「織り物がうまくなりますように」という意味や、魔除けの意味があるのだそうです。

さあ、今日は空を見てみよう！夜、暗くなった頃に空を見上げてみよう。星は見えるでしょうか。よく目をこらしてみると、小さな星や大きな星、きらきら光ったりまたたく星が見られるかもしれません。星がたくさん集まった天の川も見えるかもしれません。その両側に輝いているのが、織姫星と彦星です。見えるといいですね。そして何を願いますか？今まで何も願い事がなかった人はこの機会に何か、願い（目標）を見つけてみてはどうでしょうか？目標のある人は改めてその目標を確認する日にしてみてもいいと思います。校長先生もみんなが元気に残りの1学期を過ごしてくれることを願う1日にしたいと思っています。

